

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200058		
法人名	有限会社 アコード		
事業所名	グループホーム ユートピア	ユニット名	1階ユニット
所在地	〒316-0034 茨城県日立市東成沢町3-23-13		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890200058-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年8月8日	評価機関 決裁日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご家族と職員の相互の信頼関係を築くことに努めている。
チームワークの重要性を全職員に理解させる努力をしている。
ホームドクターと看護師との連携を密に行い、医療の適切な対応が出来るよう努めている。
地域密着サービスであるので、ボランティアや地域の方とイベント等を通じて、ご入居者様と交流していただきながら認知症を理解して頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は法人代表者が経営するIT関係の事業所と併設しており、職員は家庭的な雰囲気のもとで利用者の支援に取り組んでいる。
代表者は毎日の昼食を利用者や職員と一緒に摂りながら交流を図り、自らも運営に関わるよう努めている。
専門のIT技術を活用し、平成25年1月から携帯情報端末をパソコンと連動させる介護支援システムを導入している。
職員は利用者に寄り添って支援しながら全ての記録をその場で確認したり、入力保存をすることが可能になり、業務の効率化が図られているほか、職員はいつでも情報にアクセスができるため、情報の共有漏れを防ぐことができている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、毎日の申し送り時に復唱行い、常に職員は利用者の生活リズムを大切にして家庭的な雰囲気づくりに努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、廊下の掲示板と事務室に掲示するとともに、職員は毎日の申し送り時に確認して共有を図り、利用者が地域の一員として生活ができるよう実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所からの季節の野菜の差し入れや定期的に行事参加の案内書を送り参加を通して日々地域の方々との交流を働きかけ、月2～3回のご近所様のお話ボランティアを通じて利用者との交流も深まってきた。	日常的に近隣住民が来訪しており、自家栽培の野菜を分けてくれたり、利用者や談笑しながら交流をしている。 月1回尺八やギター、日本舞踊、フラダンス、ピアノ演奏のボランティアや10日に1回傾聴ボランティアを受け入れ、利用者と一緒に体を動かしたり、歌を歌ったりして交流をしている。 年1回近隣小学校開催の三世代交流会や敬老会に地域の高齢者と一緒に地域住民の一員として参加し、小学生の歌やダンスの発表を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良い日に散歩の機会を作り、ご近所の挨拶や野菜などの差し入れを頂いた時の様子を伝えたりして、認知症を理解して頂ける様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を実施して、ご近所の方、他施設の方々の意見など聞きサービス向上に努めている。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、地域住民、他事業所の職員、地区コミュニティ推進員の代表などで2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の心身の状況やサービスの内容を報告し、委員から出た意見や課題の改善に向けて話し合っている。 会議で出た意見を基に、利用者が2階のベランダでも花の世話ができるように、委員の自宅にある鉢植えを事業所に貸し出してもらうなど、サービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい情報交換や交流を深め、協力関係を築く様取り組んでいる。介護保険課の窓口に出向いた折には、積極的に話をするようにしている。	管理者は要介護更新認定の申請等のため、介護保険課へ出向いたり、運営推進会議の市職員参加の日程調整をファクシミリで報告するなど、情報交換をしている。介護保険課主催の介護サービス事業者懇談会に年2回参加するとともに、地域密着型サービスを対象にした、市からの業務連絡会に出席し、介護保険制度の変更点を把握するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束をしない介護を理解した上で、利用者が出来るだけ自由に生活できるようにご家族と相談して、職員もお互いに安全に注意して声掛けしながら対応している。職員の勤務体制に応じて夜間帯のみ玄関を施錠している。	前回の外部評価結果を受け、職員で話し合っ居間の出入り口を施錠しないで済むように利用者を見守るなど、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は新人職員に対してマニュアルを活用しながら身体拘束に関する内部研修を行っているが、研修記録を残すまでには至っていない。	身体拘束をしないケアの実践を継続的に確認するためにも、年1回全職員に向けた研修会や勉強会などを開催するとともに、実施記録に保存することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が深く意味を理解してお互いに声掛け、確認、注意し合いながら日々虐待の無い介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に話し合える時間を作り、職員間で情報を共有出来る様に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が理解した上に納得されるまで、ご家族の意見・不安・疑問を尋ね、十分説明を行い納得されてから手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1度大体的に行事を共に行うことで家族会と職員との交流を深め、常にご家族が来訪時に気軽に意見を言える様に職員からの声掛けを実践して雰囲気作りを努めている。	利用者からの意見や要望は、日々の支援の中で直接聴いている。 「職員が付き添わなくても、自分ひとりで畑の世話をしたい」との要望を受け、野菜の苗や園芸用品を購入している。 2ヶ月に1回自主的に開催している家族会から出された意見や要望を受け、おやつや果物の提供方法を改善するなど、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の話し合いの時間を設け、出た意見や提案を職員同士で検討し合い、メールや日誌などで情報の共有を図り業務改善に努めている。	管理者は朝の申し送り時や日々の支援時のほか、電子メールを活用して全職員から意見等を聞くように努めている。 利用者の食事形態を誰もが簡単に確認できるような工夫をするほか、コードレスの小型掃除機を購入し、小まめに掃除ができるよう改善を図るなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に担当の入居者や毎月行っているイベントの担当などの役割をってもらっている。 また、職員の負担少しでも軽減できるように設備、備品を整えるよう心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が認知症実践者研修の受講を目指しているが、受講のチャンスが少ない。自社で独自の研修を行っている。また、常に職員同士で対応法や介助法の見直しなど実践で行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日立市内の事業者連絡会や介護相談員連絡会に出席し、他事業所の良い情報などを参考にして、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で得た情報を元に、24時間シートやアセスメントを活用して本人の要望・不安・気持ち・望む生活などを家族と相談しながら本人が快適な生活が出来る様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の調査時や見学の時、入所後の来訪時に家族の気持ち、要望、不安などを親身になって話を聞き信頼関係を築きながら、いつでも家族が気軽に相談できる雰囲気作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム側での支援を家族と相談話し合い明らかにして、本人が快適に生活できるケアを全職員が対応出来る様にメールや日誌に掲載して情報を共有して実践している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は家族の一員として、生活の中で職員と共に各入居者が出来ること季節の野菜の調理法などのアドバイスをもらったり、畑の野菜や草花の手入れを教えていただいて、共有し合える関係を築きながら信頼関係を深めるよう日々努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪時に本人の日頃の様子を伝え、家族と入居者の絆の橋渡しが出来様な関係を築くのに努めている。また、帰宅願望の強い入居者などはご家族の役割として週に1度程度自宅で過ごす時間を持って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの家具などを自室に配置したり、家族の協力を得て馴染みの人や外出を行ったり、昔の思い出話をする事で昔を思い出していただく様努めている。ご近所のお友達や親戚類からの手紙や電話などいつでも出来るようにしている。	職員は入居時のアセスメントにおいて、利用者のこれまでの生活歴を把握するように努めているほか、関係者から聞き取った情報をもとに、センター方式の「私の支援マップ」を作成し、馴染みの人や場所の把握に努めている。 日常的に利用者の馴染みの近隣住民や親戚が来訪して楽しく歓談をしているほか、自宅に帰り家族等と過ごしたり、家族等と買い物や美容院、外食に行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく会話出来る様に、職員同士情報の共有を常に行い入居者同士の橋渡しをして入居者同士の良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、家族や事業所との連絡を取り、情報を交換いながら支援に応じられるように努めている。他施設にうつった方の面会に行ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望や意見、思いを日常の会話の中で聞き取り、本人の意思を尊重してホームでの生活を満足しているか職員同士情報共有して常に対応出来る様にケアプランに取り組み実践している。	職員は日々把握した利用者一人ひとりの思いや意向を介護記録に記載して共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。「畑で野菜を育てたい」や「自宅に帰りたい」、「クラシック音楽を聞きたい」など、個別の要望にも家族等と話し合い、協力を得ながら支援をしている。利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学時や入所前の事前調査時の情報やご家族からの情報を収集して、本人らしい生活が送れるように毎日の記録や情報を共有して把握しケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で本人の心身状態の観察を常に行い、24時間シート・個人の毎日の記録を活用して職員間で申し送り時や日誌にて情報を共有して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当職員と他職員を交えてモニタリングを行い、情報を交換すると共にケアプランの検討、見直しに活かしケアの向上に努めている。	介護計画は利用者や家族等の意向をもとに、介護支援専門員や計画作成担当者で話し合って作成している。職員は毎月末に利用者や家族等の意向を確認するとともに、介護計画の効果をモニタリングし、必要に応じて見直しをしている。介護計画の更新時の変更や見直しの箇所が、誰が見てもすぐにわかるように色分けをして記載するなど、工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の毎日の生活を記録して日誌に掲載することによって全職員が情報を共有しケアの見直しを行いケアの向上に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	前回の反省・改善を含め、季節を感じる行事やボランティアによる行事を毎月行事計画に取り入れ参加して楽しんで頂いている。歯科往診やマッサージなどを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の市の健康診断の参加や地域交流センターからの紹介のボランティアや地元のサンドアート鑑賞、産業祭や近くで行われる下水道フェアなど参加され楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診(内科)を受け、健康管理を図っている。内科以外の受診や往診日外での受診は、ホームドクターと看護師に相談し家族の協力を得て、必要時は職員付添にて適切に受診出来る様に支援している。	かかりつけ医を把握するとともに、必要に応じた医療機関への受診や訪問歯科診療が受けられるよう支援をしている。 家族等が通院に付き添えない場合には職員が付き添い、受診結果は連絡帳に記載して家族等が来訪した際に閲覧する方法で情報の共有を図っている。 家族等と受診する場合には、職員は利用者の日頃の様子を文書などで医師に情報提供し、受診後は家族等から結果の報告を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康状態を常に確認、把握し変化が見られたときは常に看護師との報告、相談を徹底して連携を取りすぐに対応出来る体制を実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師からの情報や職員面会時の情報、家族からの情報などを収集してホームの医師と看護師に報告・相談を行い、退院後対応できる体制づくりに努めている。骨折などの場合は抜糸したらずぐに退院してもらうようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの可能な対応について家族に説明を行い理解して頂き、家族と話し合い方針を決めて、本人の心身状態を常に観察し家族・職員・医療機関など連携を保ちながら対応していきます。ご家族に終末期に向けての聞き取り調査を行っている。看取り介護計画書を作成したケースもある。	前回の外部評価結果を受け、重度化した場合や看取り介護については、利用者や家族等の意向を確認して同意を得ながら医療関係者と連携を図り、終末期ケアに取り組んでいる。 緊急時対応マニュアルを作成するとともに、看取り介護に向けて職員の対応方法や役割分担を含めてカンファレンスを随時開催するとともに、記録を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に職員同士話し合いを行い、急変時に対応出来る様にマニュアルに沿って定期的に訓練を行い、急変時の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の近隣住民などの協力を得て避難訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練も実施している。災害時の食料や水の把握も担当職員を決めて管理している。	火災や地震災害及び夜間を想定した避難訓練を年2回実施するとともに、実施記録を作成して課題を明らかにし、次回の訓練につなげている。 緊急連絡網を作成するとともに、近隣住民の参加を得ながら避難訓練を実施している。 災害に備えて飲料水3日分や米、レトルト食品、缶詰等の食品、懐中電灯、ライター、ロウソクを備蓄するとともに、備蓄品リストを作成して管理をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士情報共有し注意し合いながら、本人の人格を尊重した話しかけ方やプライバシーや誇りを傷つけない言葉使いを努め、個人個人にあった対応をしている。	職員はアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者の気持ちを尊重しながら呼称に配慮して支援をしている。排泄や入浴を促す場合には耳元で声をかけるようにしているほか、入浴時は脱衣所にカーテンを使用し、プライバシーを確保している。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管しているほか、利用者及び家族等から個人情報の利用目的に関する同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が希望しやすいように、声掛けの言葉使いや話を受容したりして自己決定しやすい雰囲気や環境を心かけて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握して、本人の希望の生活のリズムを尊重した穏やかな生活を過ごしてもらうように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れながら毎日快適に過ごしてもらうように身だしなみの声掛けまたは介助を行い、2か月に1度の定期的な散髪を実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の誕生会には本人の好きなメニューや季節に合わせた献立や季節の行事のメニューなどを取り入れ、各入居者に合わせた調理を行い食事を楽しめるように提供している。職員と一緒に下ごしらえや片づけに参加してもらっている。	利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、茶碗拭きなど、できることは役割を持って取り組んでいるほか、職員も利用者と一緒に同じ献立の食事を摂りながら支援をしている。 利用者が季節を感じながら食事を楽しめるように、昼食には必ず季節の果物を提供するように配慮している。 年1回家族等と一緒にバーベキューをしたり、誕生日には利用者の好きな寿司などで祝うほか、ベランダやウッドデッキに出てお茶を飲んだりする機会を設けるなど、食事が楽しみなものとなるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の1日の必要水分摂取量を把握しやすいうようにホームの介護ソフトを活用して職員同士確認しながら対応できるようになっている。ホームドクターの定期的な診療及び血液検査の結果による指示の元、本人に合わせた食事の提供を努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行実施して、担当歯科医師の定期的な検診時のアドバイスを元に、介助を行い清潔を保持できる状態を実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握して、個々に合わせた声掛けを行い、時間を決めて誘導することによって自立に向けて習慣化するような支援をしている。	職員は排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄のタイミングを計りながらトイレ誘導をしているほか、トイレでは自立した排泄ができるような声かけと介助に努めている。 トイレは車いす対応で広く手摺も設置されており、介助が必要な状態でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫をしている。 必要に応じて居室でもポータブルトイレを利用することができるため、下着で過ごす利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の適度な運動や乳製品や食物繊維、海藻類の取り入れ、介護ソフトを活用して排便の把握を行い、排便見られない時は腹部のマッサージなど個々に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を実施している。本人の要望が入浴の時間帯や順番が通る様努め、必要がある場合は日中いつでも入浴できる。季節の物(みかんの皮、ゆず、菖蒲など)を取り入れ、入浴を楽しんでもらう様に実践している。	利用者の希望により、基本的には週2回午前中の入浴支援を行っているが、利用者の心身の状態に合わせて足浴や清拭、次の日の入浴も可能となっている。 入浴に対して不安等を感じている利用者でも無理なく入浴ができるよう、一人ひとりに合わせた声かけを工夫している。 利用者が入浴を楽しめるよう歌を歌いながら入浴したり、グレープフルーツや入浴剤を使用するなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重しながら、日中の活動を行い昼夜逆転を予防して、足のむくみ予防を含んだ昼寝を取り入れ、就寝時間も様子を見て声掛けし本人の意思に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が徹底してホームのマニュアルに沿って実践することにより、服薬での事故を防ぎ、各職員が入居者の服用している薬の用法・副作用を薬局からの説明書やインターネットなどを使い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割を持ってもらい、日々楽しく暮らせるように本人の意思を尊重した支援が出来る様に職員間で話し合い努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じる風景のドライブ・散歩をしたり、普段行けない個々の希望に沿った外出を家族の協力を得て実践している。 ビール(BBQや誕生日などに提供)、自分用の新聞を2名とっている、家族や職員とオセロを行い楽しんでる。	日常的に庭先に出て散歩ができるように支援をしているほか、気分転換が図れるようにベランダやウッドデッキで草花や鉢植えの手入れを支援している。 市の集団健康診断に参加ができるように支援をしているほか、海岸沿いの公園や産業祭などの地域の催し、年1回の遠足を企画し、家族等と一緒に動物園などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお小遣いを預かり、本人の自立度に合わせたの買い物を職員と共にお店に外出して出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と本人の要望時にどう対応するかを決め、本人の自尊心を傷つけないように対応行い、必要に応じて電話を掛けられる対応をしている。毎年家族に年賀状を出す支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキに出て季節の花や野菜を鑑賞しながらのお茶会や近所の方からやご家族からの季節の花の差し入れをリビングに飾り、共同空間の清掃をこまめに行いながら安全な環境作りや居心地の良い環境作りを努めている。	居間兼食堂には利用者と職員で制作したぬり絵や行事の写真、献立が掲示され、明るく家庭的な雰囲気となっている。 テレビの前にはソファが配置してあり、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができるように工夫をしている。 2階には70人程が収容できるコミュニティホールがあり、家族会や運営推進会議のほか、フラダンスや日舞のボランティアの発表などの催しに活用している。 2階のベランダを活用して家族等と一緒にバーベキューを開催している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でも、個々の意思を尊重して自由に気の合った同士の話しやお気に入りの場所でのテレビ鑑賞など個々で思い思い過ごせるように環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染んだ家具や洋服、小物などをご家族に用意して頂き、本人の馴染みやすい部屋作りにご家族の協力を得て、本人が居心地よく過ごせる様環境作りを行っている。	利用者は家族等の協力のもと、鏡台などや自宅で使い慣れた寝具、冷蔵庫などの家電のほか、CDプレーヤーやピアノ、百人一首、月刊誌などを持ち込んだり、家族等からの葉書やぬいぐるみ、造花を飾り、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下やリビング、トイレなど多くに手すりを配置してある。床に調節物を置かないなどの安全面に配慮している。特にふらつきのある方には部屋に移動式手すりを設置している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループ ホームユートピア

作成日 平成27年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		新人職員に対してマニュアルを活用しながら身体拘束に関する内部研修を行っているが、研修記録を残すまでには至っていない。	身体拘束をしないケアの実践を継続するためにも、年1回全職員に向けた研修会や勉強会などを開催するとともに、実施記録に保存することを期待する。	全体会議を実施するとともに、月に1回の勉強会を計画して実施する。	全体会議と身体拘束についての勉強会をH.27年1月29日に実施済み。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。